「軽貨物進出」機に成長

EC大手とパートナー

一般貨物運送事業も手掛ける complete

complete（中易元・社長、札幌市中央区）は軽貨物事業への進出を機に成長を続けている。主力のEC（電子商取引）商品配送では、EC大手とパートナー企業として直接契約を結んでいる。中易社長は「物流業界は完全に未経験で、戸惑うことも多かった。だからこそ業界の常識にとらわれずに行動できたし、日々刺激を受けている」と話す。

ウェブサイトの制作を手掛ける企業として、2018年4月に設立。10月に軽貨物事業に進出し、EC需要の高まりなどを背景に事業を拡大してきた。

現在は軽バン75台を保有し、50～60人の個人ドライバーと委託契約を結んでいる。大手ECサイトの商品配送がメインで、運送事業の売り上げの6割を占める。23年9月には配送パートナー企業として、道内ではいち早く直接契約を結んだ。大手物流企業やネットスーパーからも委託を受けている。

一般貨物運送事業も24年2月から始めた。10㌧車や1㌧バンで一般雑貨や日配品、飲料を運ぶほか、冷凍・冷蔵分野にも進出。大手ECサイトのロゴを入れた車両で宅配貨物も配送している。

確定拠出年金の導入など、福利厚生に力を入れている。契約している個人ドライバーに対しては、荷主からの運賃や委託手数料、その他経費を書面で明示することで信頼関係につなげる。軽貨物事業に関する法改正を受け、資料を作成して情報提供するなどサポートも徹底。ドライバーの5年定着率は、91%と高い。

今後は、地域の中小規模の商店の需要を見込む。小回りが利く軽バンや1㌧バンを生かし、配達などを代行することで効率化に貢献する。軽貨物ドライバーに特化した形で、求人や業務委託契約に活用できるサイトの運営も視野に入れる。

「老若男女が経験を生かして活躍できる会社を目指す。特に軽貨物のドライバーは、『やって当たり前』とされることが多い。頑張る人が評価される環境をつくりたい」（中易氏）

（朽木崇洋）

舛川氏が北見ト協会長

「社員の幸せへ賃金交渉」

北見地区トラック協会は19日、総会と理事会を開き、任期満了に伴う役員改選で福原裕二会長（73、湧別小型運送）の後任に舛川実副会長（62、北見通運）の昇格を決めた。総会後の懇親会で、舛川氏は「社員の幸せのために荷主と賃金交渉をして、魅力ある業界にしていかなければならない」と述べた。

（土屋太朗）

「魅力ある業界に」と舛川新会長

阿部秀明（上渚滑運輸）、小池正人（小池重機）の両副会長は留任。中田尊徳（中田建機）、小林正典（三栄通商）の両理事が副会長に就いた。

決算は、事業活動収入が4663万円で、繰越金は1162万円。予算は収入4522万円。

福原会長は、会長職を5期10年務めた。協会の役員としては計28年間携わった。

退任に当たり、福原氏は「何もしないで終わってしまったという気もするし、皆さんにはご迷惑をお掛けしたかなと思っている」と振り返った。その上で、自治体との防災協定の締結などを進めたことを振り返るとともに「無事故であることを一番に大事にしたつもり。職員の方にもお世話になり、今日まで務めることができた」と述べた。舛川氏に対し、「ぜひ活躍してもらいたい」と期待を寄せた。

安全大会・事故防止講習

福ト協県南支部 橋本支部長が続投

「法律についての理解を深めよう」と橋本支部長

福島県トラック協会の県南支部（橋本一美支部長）と陸上貨物運送事業労働災害防止協会福島県支部の県南分会（同分会長）は9日、決算などを承認した。任期満了に伴う役員改選では、橋本支部長（ハシコー梱包運輸）と3人の副支部長の続投を決めた。

役員改選では、水野光芳幹事（水野運送店）が監事に回ったほか、古谷重男（日軽運輸）、人見守良（白河通運）の両幹事は退任。後任に中村須美子（中村建運）、髙橋一馬（髙橋工材）、大竹貴博（大竹運送）の各氏を幹事に選任した。鈴木克昭監事（鈴木運送）に代わって、人見慎太郎氏（白河通運）を充てた。

橋本氏が「新物流2法」の施行や事業許可更新制、適正原価の義務化などの話題を取り上げ、「こうした法律について理解を深めなければならない。その上で、今後の対策を講じていこう」とあいさつ。

時間外労働の上限規制について、本部の佐藤信成会長は「しっかり管理されていると思うが、困ったことがあれば協会に相談してほしい」と強調。

陸災防福島県支部の白井郁事務局長は、フォークリフト作業中の事故防止や熱中症対策の徹底を呼び掛けた。

25年度の事業として、これまで開催してきた安全大会に合わせて交通事故防止講習会を実施することなどを報告した。決算は収入1019万円。繰越金1378万円のうち、持寄金を会員助成金として返還したほか、支部では200万円を繰り越す。25年度から支部の運営費金は本部が一元管理する。予算は576万円。

（今松大）

蓬田支部長ら全員留任

県北支部 適正運賃収受、実現へ

あいさつする蓬田支部長

福島県トラック協会の県北支部は15日の総会で任期満了に伴う役員改選を行い、蓬田隆信支部長（福島倉庫）ら執行部全員が留任した。

蓬田氏が「時間外労働の上限規制の施行から1年以上経ったが、まだまだ改善半ばの事業者も多いと思う。発荷主をはじめ、着荷主やドライバーの協力が必要不可欠。他業種との時給差をなくすためにも、適正運賃・料金の収受を実現してほしい」とあいさつ。

決算は収入650万円で、200万円を繰り越す。予算は960万円で、本部の一元管理となる。事業計画は、交通事故・飲酒運転根絶や労働災害事故防止対策の推進、物流革新に向けた改正物流法などへの対応、多様な施策による良質なドライバーの育成など。

陸上貨物運送事業労働災害防止協会の福島県支部（蓬田支部長）の総会も同時に行われ、荷役労災や交通労災の防止を軸とする事業計画を報告した。

（稲井日菜子）

ブラジリアン柔術と両立

いわべ物流 脇野 大介氏

ブラジリアン柔術の道着を着用する脇野氏

「ブラジリアン柔術で培った体力や呼吸法が仕事に役立っている。重い荷物を持って階段を上がるのも今では楽勝。今後も仕事と趣味を両立させたい」と話すのは、いわべ物流（岩部俊社長、札幌市西区）の脇野大介氏（51）。

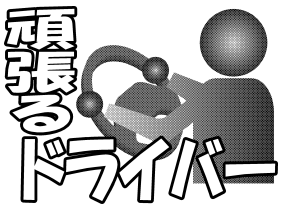
個人事業主のドライバーとして活躍していた経験を生かし、2024年1月に同社に入社。現在は、4㌧トラックでボイラーや給湯器などの市内配送を担当している。

「元タフードデリバリーなどの仕事をやっていて、いわべ物流と関わりがあった。インボイス制度（適格請求書等保存方式）がスタートし、今後について考えていた矢先に岩部社長から入社しないかと声を掛けていただいた」と振り返る。

「それまで軽バンに乗っていたので、死角や内輪差などの違いに最初は驚いた。安全運転にはかなり気を使っていたが、『走る凶器』とも言われるトラックに乗り換えてからは、絶対に無事故・無違反を貫こうと、より交通安全を心掛けるようになった」

交通安全と同じぐらい真剣に取り組んでいるのは、49歳の時に始めたブラジリアン柔術だという。

「友人に誘われ、健康のためにと軽い気持ちで始めたが、汗をかくことの気持ち良さや競技の奥深さに次第に魅了されていった。最初はトレーニングがつらく、自分の体力のなさに絶望したが、今では腹筋が割れて、スタミナもかなり付いた」と笑う。



24年には、アジアスポーツ柔術連盟による北海道大会や格闘技用品の製造・販売会社主催の柔術大会などに4回出場。優勝3回、準優勝1回と華々しい成績を収めている。

「競技人口は、国内で3万人と言われているが、黒帯の所持者は千人以下だと聞いている。今は青帯だが、いずれ黒帯を目指したい。ブラジリアン柔術は、体力や技術はもちろん、詰め将棋のように先を予測しながら、頭をフル回転させる必要があるスポーツ。ドライバーの仕事にも通じるものがあるので、今後も二刀流を極めたい」と前を向く。

好きな言葉は、「何かを始めるのに遅すぎるということはない」。（高清水彩）

体力・呼吸法 仕事に役立て

秋ト協長距離部会

合同研修&施設視察

対策検討や事例発表

秋田県トラック協会の長距離部会（嶋田誠部会長）は13日に総会を開き、労務研修会の開催や最新物流施設などの視察を盛り込んだ事業計画を承認した。労務研修会はほかの支部や部会と合同で、年2回開催する。長距離輸送に関する諸課題を掘り起こし、解決に向けた対策の検討や事例発信に取り組む。

「一丸となって一つずつ課題を乗り越えよう」と嶋田部会長

嶋田部会長が「時間外労働の上限規制が始まって1年になるが、どんな状況か。高速道路の深夜料金割引制度の変更や事業許可更新制など、我々を取り巻く環境は多くの課題に直面している。一丸となって一つずつ乗り越えていこう」とあいさつ。

予算は50万円。

（今松大）

人材確保を強化

荷主へ広報・ゼミ

秋田支部

秋田県トラック協会の秋田支部（畠山亨支部長）は2025年度、人材確保に向けた取り組みを強化する。24年度の課題解決プロジェクトで掘り起こしたテーマを追求し、本部や秋ト協人材委員会（佐藤邦治委員長）と連携して、荷主への広報やセミナーなどを通して改善を促す。13日の総会で、事業計画として承認した。

「諦めずに努力を」と畠山支部長

畠山支部長が、事業許可更新制や適正原価の義務化などの話題に触れ、「目標はすぐに達成できないかもしれないが、諦めずに努力していけば前に進む。協力し合って課題解決につなげていこう」とあいさつした。

このほか、街頭啓発や道路清掃も実施する。

一方、舛川氏は「福原会長には長きにわたりご尽力いただいた。心から感謝を申し上げたい。自分自身、まだまだ若輩であり、皆さまにご指導をお願いしたい」と述べた。

物流業界について、「変わり目を迎えており、人手不足や少子高齢化で、残り5年と言わず、2、3年後には20代が入ってくる業界になるのか心配な状況だ。そうした中でも、社員の幸せのために荷主との賃金交渉や勤務時間の短縮を進めるとともに、魅力ある業界にしていかないといけない」と呼び掛けた。

秋田支部など

SNS活用で若手確保

合同研修 成功事例を共有

秋田県トラック協会の秋田支部と長距離輸送部会、重量部会（元木忠光部会長）は13日、合同研修会を開催した。SNSを活用した若手ドライバーの確保についての講演を聴くとともに、成功事例を共有した。

船井総研ロジ物流ビジネス支援部の柴田純平チームリーダーが、ドライバーの転職市場の変化や、各求人媒体のメリットとデメリットなどを紹介。応募を増やすために中小運送会社が取り組むべきSNSの活用方法を示した。奥洲物産運輸（宮城県東松島市）の菅井武英社長が採用の成功事例を発表。会社の認知を高めるためのノウハウや課題、今後の展望などを説明した。

成功事例を発表する菅井・奥洲物産運輸社長

冒頭のあいさつで、畠山亨支部長が「秋田にとって、人材確保は大きなテーマ。採用と離職の両方の問題をいかに解決するかが重要になる。秋田の物流を持続可能にするための一助となればうれしい」と強調。

秋ト協人材委員会の佐賀晴樹副委員長は「もはや、ハローワークに求人を出すだけでは人は集まらない。これからはコストを掛けて人材を確保しなければならない時代。ドライバーの奪い合いをやめ、新たな方法を考えていこう」と述べた。

（今松大）

岩ト協水沢支部

海鋒支部長が留任

警察署に事故防止グッズ

岩手県トラック協会の水沢支部は10日の総会と理事会で任期満了に伴う役員改選を行い、海鋒徹哉支部長（白金運輸）の続投を決めた。菅原能興（南部運輸）、吉成明夫（DOWA通運）の両副支部長が留任。理事の高橋護氏（共栄運輸）が退任し、菅谷忠寿氏（本宮運輸）が後任に就いた。

海鋒氏が「2025年度から法律の規制が強化され、いよいよ行政処分も課される。今年度が本番という意味で、『24年から問題』と言える。一部規制が強化されつつも、基本的には国に応援してもらっている。業界団体を通じて国・行政にしっかりと皆さんの声を届けていく。関係法令を守りながら、新しい時代を乗り切ろう」と述べた。

「新しい時代を乗り切っていこう」と海鋒支部長

決算は、繰越金を含め収入557万円で、51万円を繰り越した。事業計画には、重点取り組み事項に、重大事故防止や労働災害防止対策の積極的な推進、労働環境整備に向けた適正運賃・料金の更なる推進、適正化事業の推進によるコンプライアンス（法令順守）の徹底などを挙げている。繰越金を含めた予算は559万円。

また、同日に開催した交通事故防止・労災防止安全大会で、交通事故防止グッズの贈呈式を行い、海鋒氏が奥州警察署の田中洋二署長に目録を手渡した。今年度はディズニーキャラクターの反射材2千個を手渡した。田中氏は「街頭活動で配るなど、地域の交通安全推進のために有効活用させていただく」と謝意を述べた。

及川淳一理事（及川運送）が、交通事故と労災の防止徹底を盛り込んだ安全宣言案を読み上げ、満場一致で採択。全員で無事故・無災害を誓った。

（鈴木明香理）

山ト協置賜支部

本部と連携密に

事故防止 重点課題

あいさつする武田支部長

山形県トラック協会の置賜支部（武田良宏支部長）は14日に開いた総会で、交通事故の撲滅や適正な運賃・料金の収受を図り、本部と連携を密にしながら安心・安全でより品質の高い輸送サービスを提供し続ける基本方針を確認した。

武田支部長が「業界の諸課題が山積みで大変厳しい経営環境だが、良質な輸送サービスを提供し続けるため、交通事故防止を重点課題として、労働災害の削減、環境問題に積極的に取り組んでいく」とあいさつ。

陸上貨物運送事業労働災害防止協会の山形県支部置賜分会（我妻勝男分会長）の総会も同時に開かれ、研修会や労災防止大会、山形ゼロ災害運動への参加などの事業計画を承認した。決算は、支出61万円で25万円を繰り越す。予算は62万円。

（稲井日菜子）

（面担 三田澪）